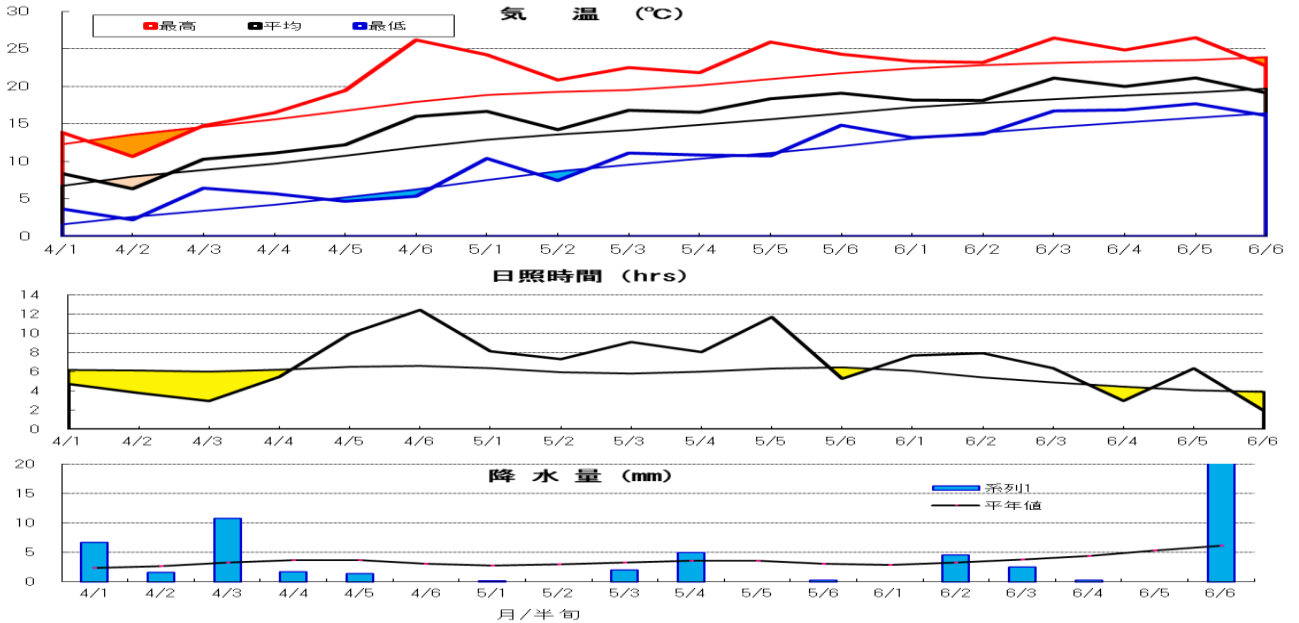


稲作情報6号

平成27年7月2日
JA全農みやぎ

= 水稻生育は移植・直播とも進んでいる。！！ =

1 気象経過



- ・ 6月の気温は、平年並み～やや高めに経過した。
- ・ 6月の日照時間は、前半が平年をやや上回り、後半は並から寡照傾向となった。
- ・ 降水量は、平年より少雨傾向が続いていたが、梅雨入り(6/26)後6月27日に90mmを超える大雨があった。

表-1 5, 6月の

	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年差	平年比	平年差	平年比	平年差	平年比
5月上旬	16.2	2.2	0.0	0%	86.3	139%
中旬	17.9	3.2	44.5	105%	84.6	155%
下旬	19.8	3.7	0.5	1%	102.4	149%
5月	18.0	3.0	45.0	41%	273.3	148%
6月上旬	18.8	1.2	30.0	90%	77.1	138%
中旬	20.6	2.1	4.0	9%	45.9	103%
下旬	20.5	1.2	96.5	147%	44.5	133%
6月	20.0	1.5	130.5	90%	167.5	125%

2 生育状況

【移植栽培】7月1日現在

- ・ 県全体の平均値は、草丈が51.6cm(平年比104%)、m²当の茎数は557本(平年比103%)、葉数は9.9枚(平年差0.2枚)、葉緑素計(GM)値は40.8(平年差▲0.7)で2~3日進んでいる。
- ・ ほとんどの移植では必要茎数(400~500本程度)を確保している圃場が多いと思われる。

表-2 県全体&品種別生育状況(県生育調査圃)

県全体

県全体	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/m ²)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)			
	51.6	98	104	557	94	103	9.9	▲0.2	0.2	40.2	▲0.6	▲0.7

品種別

品種別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/m ²)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)			
ひとめぼれ	52.2	99	104	537	94	102	10.0	▲0.0	0.3	40.8	▲0.1	▲0.2
ササニシキ	48.5	94	104	599	95	107	9.7	▲0.5	0.1	38.4	▲2.2	▲2.5
まなむすめ	55.4	95	99	594	90	104	9.7	▲0.5	▲0.0	40.7	▲0.5	▲0.5

ま
な
む
す
め



げ
ん
き
ま
る



【極早生品種「五百川」の生育状況】6月29日現在(前年同期)

- ・ 田植 4月25日 草丈62.9cm(69.1), 茎数667本/m²(601), 葉数10.6枚(10.6), 幼穂長5.3mm
- ・ 幼穂形成期(1mm)を過ぎて, まもなく減数分裂期を迎える見込みである。



【直播栽培】6月29日現在

- ・ 直播栽培については, 草丈は40cm弱, 葉数は7~9枚程度となっており, 移植に比較して1枚~2枚程度遅れていると思われるが順調な生育となっている。
- ・ m²当茎数に関しては, 圃場により大きな差があり, 250本強~700本となっており, 既に有効茎数を確保し, 過剰分げつ傾向の圃場も見られる。
- ・ 雑草の発生状況は, ヒエやホタルイの発生が見られるものの, 除草剤処理により除草効果が大きい, 今後後発雑草の懸念される圃場も見受けられる。

播種期	草丈(cm)	葉数(枚)	茎数(本/m ²)	葉色
5月9日	35.5	7.6	401	43.6
5月7日	38.5	8.6	665	39.4
5月16日	26.5	6.9	263	-



穂刈枯死状況

石
巻
の
事
例



大
郷
の
事
例



3 今後の管理

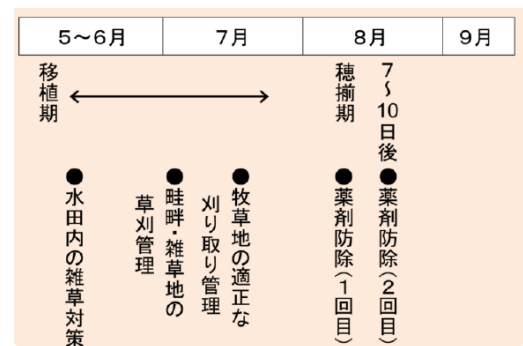
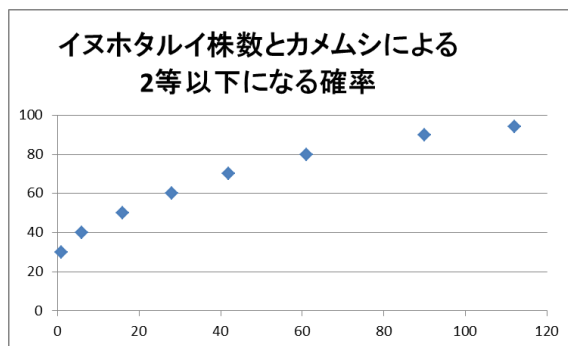
(1) いもち病防除と斑点米防止

- ・いまだに、本田に残苗が各地域で見られ、いもち病発生の要因となるので緊急に処分する。
- ・直播栽培では、いもち病予防の箱処理をしていないので、梅雨に入り天候が不安定で適度な温度となった場合、急激に病勢が進展するので、計画的に本田予防防除を実施する。
- ・防除所から公表されたアメダスから推定した葉いもち感染好適日を見ると、6月13, 20, 23日と県内各地で好適条件や準好適条件日が出現しており、いつでも発病する恐れがある。
- ・いもちの発病には、平均気温が20~25℃、曇りや雨の日が多いことが好適であり、天候の推移に注意する。
- ・既に、畦畔や周辺にあるイネ科植物にカメムシが見られるので、草刈や環境整備に留意する。
- ・県内水田を見るとホタルイが多数残草しており、斑点米発生防止のため、雑草防除や虫害防除を徹底する。



左：放置残苗 右：葉いもち

カメムシの防除



(2) 水管理

- ・気温が高めに経過したことから、稲わらや雑草による二酸化鉄が表面に浮いたり、ガスの発生がみられるので間断灌水や中耕等によりガス抜きに努める。
- ・多くの圃場で有効茎を確保しており、無効分げつ抑制・根の健全化・地耐力向上等のため、早期の中干しを実施する。また、幼形期(予想7/7~7/8)低温時は深水とする。
- ・特に鉄コーティング直播等の表面播種では、倒伏軽減のため強めの中干しを徹底する。

